

**令和7年度**

**荒尾市の教育に関する事務の管理及び  
執行の状況に関する令和6年度事業  
点検・評価報告書**

**令和8年3月**

**荒尾市教育委員会**

**「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価」の目的  
及び点検・評価の方法等について**

**荒尾市教育委員会の事務の点検及び評価**

**1. 目的**

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の規定に基づき、荒尾市教育委員会がその権限に属する事務の管理および執行の状況について点検および評価を行い、その結果に関する報告書を公表し、市民に信頼される効率的・効果的な教育行政の推進を目的とする。

**2. 方法及び基準**

(1)「荒尾市教育委員会の事務の点検及び評価実施要綱」に基づき、事業ごとに「必要性」、「効率性」、「目標達成度」について基本評価を行い、これをもとに今後の方向性として「総合評価」を行う。

(2) 評価基準

①基本評価（必要性・効率性・目標達成度）の基準

評価項目	評 価		評価の視点
必要性	A	市民等のニーズが高く必要な事業である	○市民や児童生徒及び保護者等にとって必要な事業か  ※目的の妥当性、市民のニーズ ※他に類似の事業はないか
	B	法令等で定められ、またはある程度ニーズがあり必要性が高い	
	C	市民等のニーズはあるが、実状に適應しなくなっている部分がある	
	D	市民等のニーズや実状に全く適應しておらず不要な事業である	
効率性	A	実施手法は適切で、見直す必要はない	○事業実施の手法は適切か  ※事業費に見合った成果が得られているか ※類似の事業を実施している他の自治体等と比べてどうか
	B	実施手法は概ね適切である	
	C	実施手法は概ね適切であるが、一部見直しが必要である	
	D	実施手法を大幅に見直す必要がある	
目標達成度	A	十分達成できた	○計画及び目的通りに目標を達成できたか
	B	概ね達成できた	
	C	やや不十分であった	
	D	不十分であった	

## ②総合評価（今後の方向性）の基準

総合評価	評 価	
	A（拡 充）	十分な事業水準にあり、かつ必要度も高く、事業の拡充が必要
	B（継 続）	一定の事業水準にあり、今後も効率化を図りつつ、現在の事業水準を維持する
	C（見直し）	事業の必要性はあるが、その手法・執行体制等の見直しが必要
	D（完 了）	事業が完了
	E（廃 止）	事業を廃止

### 3. 対象事業

教育委員会の権限に属する予算事業を点検及び評価の対象とする。

荒尾市教育委員会の事務の点検及び評価 対象事業一覧(令和6年度事業分)

項番	事業名	教育振興基本計画における基本方針番号及び基本的施策		担当課
		基本方針	基本的施策	
1	語学指導外国青年招致事業費	1	1-2未来を拓く力の育成	教育振興課
2	小学校・中学校ICT環境整備事業費	1	1-2未来を拓く力の育成	教育振興課
3	荒尾市就学援助事業費	2	2-3学びと育ちの支援	教育振興課
4	学校給食費無償化事業費	2	2-3学びと育ちの支援	教育振興課
5	小学校・中学校施設長寿命化改修事業費	4	4-1教育環境の整備・充実	教育振興課
6	英語検定チャレンジ事業費	1	1-1確かな学力の育成	教育振興課
7	授業改善アドバイザー事業費	1	1-1確かな学力の育成	学校教育課
8	子ども未来文庫整備事業費(小学校・中学校)	1	1-1確かな学力の育成	学校教育課
9	特別支援教育支援員事業費	2	2-1多様なニーズに対応した教育の推進	学校教育課
10	心の教室事業費	2	2-2教育相談及び教育支援体制の充実	学校教育課
11	小岱教室事業費	2	2-2教育相談及び教育支援体制の充実	学校教育課
12	フリースクール事業費	2	2-2教育相談及び教育支援体制の充実	学校教育課
13	図書館管理費	3	3-1人生100年時代を見据えた生涯学習の実現	生涯学習課
14	あらお子どもスポーツ教室事業費	3	3-2生涯スポーツの振興及び生涯学習活動施設の整備充実	生涯学習課
15	荒尾市運動公園施設長寿命化計画事業費	3	3-2生涯スポーツの振興及び生涯学習活動施設の整備充実	生涯学習課
16	地域と学校の連携・協働体制構築事業費	4	4-4家庭、地域、学校の連携・協働の推進	生涯学習課
17	夏休み子ども学び塾事業費	4	4-4家庭、地域、学校の連携・協働の推進	生涯学習課

事業名		語学指導外国青年招致事業費				担当部署	教育振興課		
会計	一般会計	款	10教育費	項	01教育総務費	目	02事務局費	教育振興基本計画基本方針	1
予算額(円)	26,565,220		前年度決算額(円)	26,494,394			基本的施策	1-2未来を拓く力の育成	
決算額(円)	事業費		財源内訳(円)						
	24,746,226		国庫支出金	県支出金	地方債	その他※	一般財源		
			0	0	0	0	24,746,226		
		※その他内訳:							
根拠法令等	学校教育法施行規則								
事業の目的	外国青年招致事業(JETプログラム)を活用し、本市における外国語教育の充実を図るとともに、青年交流による地域レベルでの国際交流の発展を図ることを通じて、本市と諸外国との相互理解を増進し、もって本市の国際化の促進に資することをその目的とする。								
事業の内容	ALT(外国語指導助手)は、主に市内の小中学校において、外国語科指導の補助、国際理解教育の補助、児童生徒の課外活動への参加及び協力、外国語教材作成の補助、外国語科担当教員に対する現職研修への補助等に従事する。								
事業費内訳	内訳						決算額(円)		
	基本報酬						16,976,349		
	共済費						2,876,517		
	費用弁償						36,112		
	通信運搬費						84,700		
	手数料						140,800		
	火災保険料						39,320		
	借上料						2,748,015		
	備品購入費						46,900		
	自治体国際化協会負担金						460,000		
	招致旅費負担金						1,185,333		
	JET傷害保険負担金						152,180		
	合計						24,746,226		
事業の成果・実績	<p>令和6年度は7、8月で任期満了となった3人の後任として、新たに3人任用することができ、従来の5人体制で事業を遂行することができた。</p> <p>その結果、英検受験を含めた外国語教育の指導が実現できたことに加え、英語教諭と連携して授業を行うことで授業力の強化につながり、本市における外国語教育のさらなる充実を図ることができた。</p> <p>さらに、ネイティブの発音を耳にすることができるリスニングの機会の充実だけでなく、学校生活においてもALTが多くの児童生徒と触れ合う機会が増えることにより、外国の文化や習慣等についても学ぶことができるなど、外国語教育及び国際理解教育の充実に寄与した。</p>								
評価	必要性	A	効率性	B	目標達成度	B	総合評価	B	
備考・特記事項									

事業名		小学校・中学校ICT環境整備事業費				担当部署	教育振興課		
会計	一般会計	款	10教育費	項	02小学校費 03中学校費	目	02教育振興費	教育振興基本計画 基本方針	1
予算額 (円)	161,915,560		前年度決算額 (円)	150,583,637		基本的施策	1-2未来を拓く力の育成		
決算額 (円)	事業費		財源内訳 (円)						
	155,616,880		国庫支出金	県支出金	地方債	その他※	一般財源		
			0	0	0	36,325,300	119,291,580		
※その他内訳： 荒尾子ども未来基金繰入金									
根拠法令等	教育振興基本計画等								
事業の目的	学習指導要領の改訂により、児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」のある授業が求められており、タブレットや電子黒板等のICT機器は、思考を可視化し表現することや、学習内容の理解を深めたりする際に効果的であることからその整備を行う。								
事業の内容	令和2年度に整備した端末やネットワークを活用し、新学習指導要領の趣旨の実現に向けて児童生徒の資質・能力の育成を図ることが必要であり、その実現に向けて各環境整備を行う。 令和6年度の主な取組として、デジタル教科書、デジタル教材の円滑な利用を進めるためローカルブレイクアウト未導入校（5校）に対してその導入を行った。								
事業費内訳	内訳						決算額 (円)		
	一般消耗品費						929,258		
	ライセンス購入費						4,034,800		
	修繕費						6,948,370		
	小学校用デジタル教科書						9,372,000		
	通信運搬費（ローカルブレイクアウト方式接続利用料含む。）						11,157,176		
	ICT支援委託料						20,427,000		
	校務支援システム構築委託料						10,657,000		
	教育ICT環境整備及び運用管理業務委託料						72,650,600		
	教育系閉域網ファイルサーバ保守委託料						224,400		
	図書管理システム保守委託料						858,000		
	サーバ容量増設委託料						6,600		
	OA機器借上料						6,514,596		
	電子黒板等借上料						10,431,720		
	備品購入費						835,120		
	授業目的公衆送信補償金等管理協会負担金						570,240		
合計						155,616,880			
事業の成果・実績	学習系ネットワークはローカルブレイクアウトの導入により、速度改善を図ることができた。								
評価	必要性	A	効率性	B	目標達成度	B	総合評価	B	
備考・特記事項									

事業名		荒尾市就学援助事業費				担当部署		教育振興課																			
会計	一般会計	款	10教育費	項	02小学校費 03中学校費	目	02教育振興費	教育振興基本計画 基本方針	2																		
予算額 (円)		63,172,000		前年度決算額 (円)		57,054,373		基本的施策	2-3学びと育ちの支援																		
決算額 (円)		事業費		財源内訳 (円)																							
				国庫支出金	県支出金	地方債	その他※	一般財源																			
		119,365	0	0	0	59,851,953																					
		※その他内訳：																									
根拠法令等		学校教育法、荒尾市就学援助要綱																									
事業の目的		経済的理由によって就学が困難と認められる児童生徒の保護者に対し、就学に係る費用の一部を援助し、義務教育の円滑な実施に資することを目的とする。																									
事業の内容		本市においては、新入学児童生徒学用品費、学用品・通学用品費、校外活動費、通学費、修学旅行費、学校給食費、医療費及び卒業アルバム代等を支給している。 なお、平成30年度からは、次年度に行う新入学児童生徒学用品費の支給を入学準備金として、現年度の3月に希望者へ前倒し支給を行っている。																									
事業費内訳		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">内訳</th> <th>決算額 (円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">要保護児童就学援助費 (小学校)</td> <td>130,110</td> </tr> <tr> <td colspan="2">準要保護児童就学援助費 (小学校)</td> <td>30,156,179</td> </tr> <tr> <td colspan="2">要保護生徒就学援助費 (中学校)</td> <td>110,000</td> </tr> <tr> <td colspan="2">準要保護生徒就学援助費 (中学校)</td> <td>29,575,029</td> </tr> <tr> <td colspan="2">合計</td> <td>59,971,318</td> </tr> </tbody> </table>								内訳		決算額 (円)	要保護児童就学援助費 (小学校)		130,110	準要保護児童就学援助費 (小学校)		30,156,179	要保護生徒就学援助費 (中学校)		110,000	準要保護生徒就学援助費 (中学校)		29,575,029	合計		59,971,318
内訳		決算額 (円)																									
要保護児童就学援助費 (小学校)		130,110																									
準要保護児童就学援助費 (小学校)		30,156,179																									
要保護生徒就学援助費 (中学校)		110,000																									
準要保護生徒就学援助費 (中学校)		29,575,029																									
合計		59,971,318																									
事業の成果・実績		<p>支給額推移</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和5年度</th> <th>令和6年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>支給額 (円)</td> <td>49,108,744</td> <td>50,743,558</td> <td>57,054,373</td> <td>59,971,318</td> </tr> </tbody> </table> <p>就学援助の支給を受けている児童生徒数（生活保護を含む。）は697人で、全校児童生徒数3,833人（令和6年5月1日現在）の約18%を占める。本事業は経済的理由によって就学が困難と認められる児童生徒の支援に役立っている。 なお、一部単価の増額等の影響により、支給額が令和5年度から2,916,945円増加している。</p>									令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	支給額 (円)	49,108,744	50,743,558	57,054,373	59,971,318								
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度																							
支給額 (円)	49,108,744	50,743,558	57,054,373	59,971,318																							
評価	必要性	A	効率性	B	目標達成度	B	総合評価	B																			
備考・特記事項	小学校振興費及び中学校振興費の中の就学援助に係る経費について抜粋して記載																										

事業名		学校給食費無償化事業費					担当部署	教育振興課																																																																																											
会計	一般会計	款	10教育費	項	05保健体育費	目	03学校給食費	教育振興基本計画 基本方針	2																																																																																										
予算額 (円)		104,624,594		前年度決算額 (円)		97,341,781		基本的施策	2-3学びと育ちの支援																																																																																										
決算額 (円)	事業費		財源内訳 (円)																																																																																																
	95,889,219		国庫支出金	県支出金	地方債	その他※	一般財源																																																																																												
			0	0	0	0	95,889,219																																																																																												
※その他内訳：																																																																																																			
根拠法令等	荒尾市市民で支える小学校給食費補助金交付要綱																																																																																																		
事業の目的	将来を担う子どもたちの成長を市民全体で支えることで、安心して子育てができるまちを目指し、子育て世代の経済的負担を軽減する。																																																																																																		
事業の内容	小学校又は特別支援学校の小学部に在籍する児童の保護者で、荒尾市に住所を有し、当該児童と生計を一にしている保護者に対し、小学校給食費補助金を交付する。ただし、国又は地方公共団体の負担において給付がある場合はそれらを優先して措置する。また、荒尾市在住で、市外の小学校に在籍する児童の保護者のうち、給食費の支払がある場合は補助金の交付を受けることができる。																																																																																																		
事業費内訳	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">内訳</th> <th>決算額 (円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">小学校給食費補助金</td> <td>95,631,811</td> </tr> <tr> <td colspan="2">個人申請分</td> <td>257,408</td> </tr> <tr> <td colspan="2">合計</td> <td>95,889,219</td> </tr> </tbody> </table>								内訳		決算額 (円)	小学校給食費補助金		95,631,811	個人申請分		257,408	合計		95,889,219																																																																															
内訳		決算額 (円)																																																																																																	
小学校給食費補助金		95,631,811																																																																																																	
個人申請分		257,408																																																																																																	
合計		95,889,219																																																																																																	
事業の成果・実績	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="6">給食費補助金実績</th> </tr> <tr> <th>学校名</th> <th>対象数 (人)</th> <th>対象外数 (人)</th> <th>個人申請 (人)</th> <th>確定額 (円)</th> <th>個人申請確定額 (円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>荒尾第一小</td> <td>413</td> <td>54</td> <td>-</td> <td>18,273,181</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>万田小</td> <td>360</td> <td>59</td> <td>-</td> <td>14,994,731</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>平井小</td> <td>122</td> <td>24</td> <td>-</td> <td>5,547,648</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>府本小</td> <td>54</td> <td>7</td> <td>-</td> <td>2,489,445</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>八幡小</td> <td>165</td> <td>46</td> <td>-</td> <td>7,262,101</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>有明小</td> <td>166</td> <td>26</td> <td>-</td> <td>7,192,518</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>緑ヶ丘小</td> <td>295</td> <td>58</td> <td>-</td> <td>12,904,962</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>中央小</td> <td>471</td> <td>94</td> <td>-</td> <td>20,248,221</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>清里小</td> <td>75</td> <td>15</td> <td>-</td> <td>2,935,714</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>桜山小</td> <td>86</td> <td>39</td> <td>-</td> <td>3,783,290</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>支援学校</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>7</td> <td>-</td> <td>168,928</td> </tr> <tr> <td>個人</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>2</td> <td>-</td> <td>88,480</td> </tr> <tr> <td>総合計</td> <td>2,207</td> <td>422</td> <td>9</td> <td>95,631,811</td> <td>257,408</td> </tr> </tbody> </table>									給食費補助金実績						学校名	対象数 (人)	対象外数 (人)	個人申請 (人)	確定額 (円)	個人申請確定額 (円)	荒尾第一小	413	54	-	18,273,181	-	万田小	360	59	-	14,994,731	-	平井小	122	24	-	5,547,648	-	府本小	54	7	-	2,489,445	-	八幡小	165	46	-	7,262,101	-	有明小	166	26	-	7,192,518	-	緑ヶ丘小	295	58	-	12,904,962	-	中央小	471	94	-	20,248,221	-	清里小	75	15	-	2,935,714	-	桜山小	86	39	-	3,783,290	-	支援学校	-	-	7	-	168,928	個人	-	-	2	-	88,480	総合計	2,207	422	9	95,631,811	257,408
給食費補助金実績																																																																																																			
学校名	対象数 (人)	対象外数 (人)	個人申請 (人)	確定額 (円)	個人申請確定額 (円)																																																																																														
荒尾第一小	413	54	-	18,273,181	-																																																																																														
万田小	360	59	-	14,994,731	-																																																																																														
平井小	122	24	-	5,547,648	-																																																																																														
府本小	54	7	-	2,489,445	-																																																																																														
八幡小	165	46	-	7,262,101	-																																																																																														
有明小	166	26	-	7,192,518	-																																																																																														
緑ヶ丘小	295	58	-	12,904,962	-																																																																																														
中央小	471	94	-	20,248,221	-																																																																																														
清里小	75	15	-	2,935,714	-																																																																																														
桜山小	86	39	-	3,783,290	-																																																																																														
支援学校	-	-	7	-	168,928																																																																																														
個人	-	-	2	-	88,480																																																																																														
総合計	2,207	422	9	95,631,811	257,408																																																																																														
評価	必要性	A	効率性	A	目標達成度	A	総合評価	B																																																																																											
備考・特記事項																																																																																																			

事業名		小学校・中学校施設長寿命化改修事業費				担当部署		教育振興課	
会計	一般会計	款	10教育費	項	02小学校費 03中学校費	目	01小学校管理費 01中学校管理費	教育振興基本計画 基本方針	4
予算額 (円)	181,688,788		前年度決算額 (円)	13,265,953		基本的施策		4-1教育環境の整備・充実	
決算額 (円)	事業費		財源内訳(円)						
	126,462,753		国庫支出金	県支出金	地方債	その他※	一般財源		
			41,950,000	0	40,700,000	0	43,812,753		
※その他内訳:									
根拠法令等	荒尾市学校施設等長寿命化計画 高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律								
事業の目的	学校施設の長寿命化を行うことによって、施設改修に係る費用等のコスト縮減や予算の平準化を図る。また、学習面・安全面等における学校が目指す姿の実現のための環境整備に努めることにより、教育環境の質的改善にも資する。								
事業の内容	荒尾市内の小中学校について、安全性確保、機能向上、トータルコストの縮減・平準化等を図る観点から、荒尾市学校施設等長寿命化計画（平成30年度策定、令和4年度更新）に基づき、構造躯体の長寿命化、屋根・外壁等の外装材の改修、内部・設備の改修等を実施する。 令和6年度は、荒尾第一小学校、府本小学校、緑ヶ丘小学校、荒尾海陽中学校の4校においてバリアフリー化工事（バリアフリースイッチ設置及び建物入口段差解消）を実施した。また、令和7年度の改修等の実施に向けて万田小学校、平井小学校、八幡小学校、有明小学校、中央小学校、清里小学校、桜山小学校、荒尾第三中学校、荒尾第四中学校においてトイレ改修工事及びバリアフリー化工事（バリアフリースイッチ設置及び建物入口段差解消）の設計を実施した。								
事業費内訳	内訳						決算額(円)		
	バリアフリー化工事費(小学校3校分)						62,835,203		
	バリアフリー化工事費(中学校1校分)						21,454,054		
	トイレ改修及びバリアフリー化工事設計委託料(小学校7校分)						30,405,973		
	トイレ改修及びバリアフリー化工事設計委託料(中学校2校分)						11,767,523		
	合計						126,462,753		
事業の成果・実績	荒尾第一小学校、府本小学校、緑ヶ丘小学校、荒尾海陽中学校の4校について、バリアフリー化工事を完了した。また来年度に向けて小中学校9校においてバリアフリー化工事調査、設計を完了した。設計に基づき令和7年度に工事を実施していく。								
評価	必要性	A	効率性	B	目標達成度	B	総合評価	B	
備考・特記事項									

事業名		英語検定チャレンジ事業費				担当部署	教育振興課																																				
会計	一般会計	款	10教育費	項	03中学校費	目	02教育振興費	教育振興基本計画 基本方針	1																																		
予算額 (円)	4,836,000		前年度決算額 (円)	3,817,835		基本的施策	1-1確かな学力の育成																																				
決算額 (円)	事業費 4,153,000		財源内訳(円)																																								
			国庫支出金	0	県支出金	614,000	地方債	0	その他※	3,539,000	一般財源	0																															
	※その他内訳：荒尾子ども未来基金繰入金3,166,530円 ほか																																										
根拠法令等	荒尾市教育振興基本計画																																										
事業の目的	本市の学校における生徒の学力及び学びに対する意欲は、学年が上がるにつれて低下し、県平均と比較しても低い状況にある。特に英語については、苦手意識を持つ生徒が多く、成績も低迷している。今後、ますます社会のグローバル化が進展し、英語力の必要性が高まると考えられる。英語授業における教員の指導力向上とともに、学校教育活動を通じた英語の日常化を図り、本市の子どもたちが、社会に出て通用する英語力を身に付けることができるようにする。																																										
事業の内容	市内中学校の1年生から3年生までを対象に実用英語技能検定(英検)の希望級の受験料を、荒尾子ども未来基金及び県からの補助金を活用して市が負担し、生徒全員が英検に取り組む体制を構築することで、日頃の英語学習意欲やコミュニケーション能力の向上のきっかけとする。 また、合否以上に、皆でそれぞれに合った目標に向けて努力することで、英語への関心を引き出し、学習意欲の向上を目指す。																																										
事業費内訳	<table border="1"> <tr> <td colspan="2">内訳</td> <td colspan="2">決算額(円)</td> </tr> <tr> <td colspan="2">英語検定手数料</td> <td colspan="2">4,153,000</td> </tr> <tr> <td colspan="2">合計</td> <td colspan="2">4,153,000</td> </tr> </table>						内訳		決算額(円)		英語検定手数料		4,153,000		合計		4,153,000																										
内訳		決算額(円)																																									
英語検定手数料		4,153,000																																									
合計		4,153,000																																									
事業の成果・実績	<p>学校向けアンケートでは、日頃の授業の中で英検対策、過去問解答と解説、二次試験対策練習としてALTの協力のもと希望者に面接練習に取り組んだと報告があった。</p> <p>今回の英検受験については、年3回の英検受験機会のうち、3年生は第2回の10月、1年生及び2年生は第3回の1月での受験とした。希望級を受験可能とし、在籍者のうち、中学1～3年生全ての学年で9割以上の生徒が受験を希望した。受験生の多くは、1年生は5級、2年生は4級、3年生は3、4級を受験した。受験の多かった3～5級の受験者数及び合格者数は以下のとおりである。</p> <p>学年別受験者数及び合格率</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">学年</th> <th colspan="2">3級</th> <th colspan="2">4級</th> <th colspan="2">5級</th> </tr> <tr> <th>受験者数 (人)</th> <th>合格率 (%)</th> <th>受験者数 (人)</th> <th>合格率 (%)</th> <th>受験者数 (人)</th> <th>合格率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中学1年生</td> <td>11</td> <td>27.3</td> <td>21</td> <td>54.2</td> <td>354</td> <td>72.0</td> </tr> <tr> <td>中学2年生</td> <td>38</td> <td>44.7</td> <td>270</td> <td>41.9</td> <td>37</td> <td>56.8</td> </tr> <tr> <td>中学3年生</td> <td>237</td> <td>37.6</td> <td>73</td> <td>24.7</td> <td>29</td> <td>27.6</td> </tr> </tbody> </table>									学年	3級		4級		5級		受験者数 (人)	合格率 (%)	受験者数 (人)	合格率 (%)	受験者数 (人)	合格率 (%)	中学1年生	11	27.3	21	54.2	354	72.0	中学2年生	38	44.7	270	41.9	37	56.8	中学3年生	237	37.6	73	24.7	29	27.6
学年	3級		4級		5級																																						
	受験者数 (人)	合格率 (%)	受験者数 (人)	合格率 (%)	受験者数 (人)	合格率 (%)																																					
中学1年生	11	27.3	21	54.2	354	72.0																																					
中学2年生	38	44.7	270	41.9	37	56.8																																					
中学3年生	237	37.6	73	24.7	29	27.6																																					
評価	必要性	A	効率性	B	目標達成度	B	総合評価	B																																			
備考・特記事項																																											

事業名		授業改善アドバイザー活用事業費				担当部署	学校教育課								
会計	一般会計	款	10教育費	項	01教育総務費	目	02事務局費	教育振興基本計画 基本方針	1						
予算額 (円)	805,000		前年度決算額 (円)	800,000		基本的施策	1-1確かな学力の育成								
決算額 (円)	事業費		財源内訳 (円)												
	800,000	国庫支出金	0	県支出金	0	地方債	0	その他※	0	一般財源	800,000				
		※その他内訳：													
根拠法令等	特になし														
事業の目的	<p>子供たちの主体性の育成に向け、教師の授業力の向上を目指すことを目的とする。子供たちに新学習指導要領が示す「主体的・対話的で深い学び」を身に付けさせるため、子供たちが自ら問いの意識を持って、問いを共有し、友達と共に学習に取り組む、自身又は学び合いを通して解決していく主体的な学習（授業）を展開し、その学び方を子供たちが体得することを目指す。そのための教師の授業改善に向けた指導助言を授業改善アドバイザーにより実施するものである。</p>														
事業の内容	<p>西留安雄氏(元東京都東村山市立小学校長。高知県教育委員会スーパーバイザー・高知県教育センター若年研修アドバイザーを経て、全国各地の授業改善・学力向上の指導に当たる。)に授業改善アドバイザーを依頼し、全4回延べ7日間の訪問指導を行う。内容は、授業改善アドバイザーに各学校1回ずつ授業(合計13回)を参観してもらい、授業改善アドバイザーの推奨する子供たちを主体とする授業スタイル(あらおベーシック)の理論や技術を各校の教諭等及び管理職等へ指導を行う。また、授業改善アドバイザーを講師として年度初めに荒尾市への新転入教職員(約90人)に対して「あらおベーシック」の研修会を実施する。授業改善アドバイザーの助言を通じて、これまでの事業による教師や子供たちの授業づくりに関するスキルの積上げに加え、新しく進化した授業スタイルなど最新の指導技術を多くの教師に身に付けさせ、授業改善を図り、児童生徒の学力向上を目指していく。</p>														
事業費内訳	<table border="1"> <thead> <tr> <th>内訳</th> <th>決算額 (円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>授業改善アドバイザー謝金</td> <td>800,000</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>800,000</td> </tr> </tbody> </table>									内訳	決算額 (円)	授業改善アドバイザー謝金	800,000	合計	800,000
内訳	決算額 (円)														
授業改善アドバイザー謝金	800,000														
合計	800,000														
事業の成果・実績	<p>あらおベーシックの定着から進化型あらおベーシックへの進展を図った本事業7年目における市内児童生徒の学力の状況は、小学校では各種学力テストの正答率において熊本県や全国平均を上回り、中学校でも教科によっては、県平均を上回るものがあるとともに、全体的に昨年度より向上しているところであり、県平均との差が縮まる傾向にある。また、県が実施している心のアンケートでは「学校が楽しい」「授業が分かる」と回答した割合が県平均とほぼ同程度で90%前後と高くなっている。</p>														
評価	必要性	A	効率性	B	目標達成度	B	総合評価	B							
備考・特記事項															

事業名		子ども未来文庫整備事業費（小学校・中学校）				担当部署	学校教育課 教育振興課		
会計	一般会計	款	10教育費	項	02小学校費 03中学校費	目	02教育振興費	教育振興基本計画 基本方針	1
予算額 (円)	2,600,000		前年度決算額 (円)	2,596,450		基本的施策	1-1確かな学力の育成		
決算額 (円)	事業費		財源内訳（円）						
	2,595,474		国庫支出金	県支出金	地方債	その他※	一般財源		
			0	0	0	2,595,474	0		
※その他内訳： 荒尾子ども未来基金繰入金									
根拠法令等	特になし								
事業の目的	荒尾子ども未来基金を活用して学校図書の充実を図り、学校図書室の計画的な利用と読書活動を推進し、学力向上等につなげる。								
事業の内容	各学校が選定したオンリーワンの学校づくりにつながる図書及びNIE推進（新聞を教材として活用し、読解力、情報処理能力、表現力等を身に付け、学力向上を目指す教育）のための新聞を教育委員会で審査承認後に購入する。購入後は、各学校において、特設コーナーを設置することで、基金活用の意義を周知し、学校図書の充実及び児童生徒の読書意欲の向上を図る。								
事業費内訳	内訳						決算額（円）		
	小学校 図書購入費						1,834,030		
	小学校 一般消耗品費						162,000		
	中学校 図書購入費						528,896		
	中学校 一般消耗品費						70,548		
	合計						2,595,474		
事業の成果・実績	各小中学校で図書を選定して購入した。NIE推進のため、全小中学校が1紙以上の新聞購読を行った。								
	小学校分実績								
	校名	図書購入冊数（冊）			新聞購読紙数（紙）				
	荒尾第一小	125			1				
	万田小	125			1				
	平井小	70			2				
	府本小	133			1				
	八幡小	82			2				
	有明小	105			1				
	緑ヶ丘小	96			1				
	中央小	117			1				
	清里小	146			1				
	桜山小	93			1				
	合計	1,092			12				
	中学校分実績								
校名	図書購入冊数（冊）			新聞購読紙数（紙）					
海陽中	151			2					
三中	81			2					
四中	125			2					
合計	357			6					
評価	必要性	A	効率性	B	目標達成度	B	総合評価	B	

事業名		特別支援教育支援員事業費				担当部署		学校教育課 教育振興課	
会計	一般会計	款	10教育費	項	02小学校費 03中学校費	目	02教育振興費	教育振興基本計画 基本方針	2
予算額 (円)		147,949,000		前年度決算額 (円)	81,684,913		基本的施策	2-1多様なニーズに 対応した教育の推進	
決算額 (円)		事業費		財源内訳 (円)					
		125,967,591		国庫支出金	県支出金	地方債	その他※	一般財源	
				0	0	0	0	125,967,591	
		※その他内訳：							
根拠法令等	教育基本法								
事業の目的	教育基本法の改正により、国において平成19年4月から障がいのある児童生徒の教育の充実を図るため、特別支援教育制度へ転換するとともに、小・中学校に在籍する教育上特別の支援を必要とする児童生徒に対して、適切な教育を行うことが明確に位置付けられた。それに伴い、特別支援学級数や特別支援学級在籍数が大幅に増えたため、障がいのある児童生徒への支援だけではなく、通常学級に在籍する児童生徒への支援も増加している。教師だけでは十分な支援が困難な状況であるため、各学校に「特別支援教育支援員」を配置し、特別な支援を要する児童生徒への個別の支援を行うとともに、通常学級に在籍する発達障がい疑われる児童生徒への対応も行う。								
事業の内容	小・中学校において障がいのある児童生徒に対し、食事、排泄、教室の移動補助等学校における日常生活の介助を行ったり、発達障がい等の特別の支援を必要とする児童生徒に対し、学習活動上、生活上のサポートを行ったりする「特別支援教育支援員」を配置する。								
事業費内訳	内訳						決算額 (円)		
	小学校	基本報酬				63,659,863			
	小学校	基本報酬 (休業補償分)				2,565			
	小学校	時間外報酬				301,172			
	小学校	期末手当				11,012,107			
	小学校	勤勉手当				9,119,644			
	小学校	共済組合負担金				4,779,599			
	小学校	健康労働保険料				7,279,046			
	小学校	費用弁償				1,534,460			
	小学校小計						97,688,456		
	中学校	基本報酬				18,368,648			
	中学校	時間外報酬				133,938			
	中学校	期末手当				3,164,222			
	中学校	勤勉手当				2,647,604			
	中学校	共済組合負担金				1,429,826			
	中学校	健康労働保険料				2,103,977			
	中学校	費用弁償				430,920			
	中学校小計						28,279,135		
	合計						125,967,591		
	事業の成果・実績	実施状況							
				令和4年度	令和5年度	令和6年度			
特別支援学級数(学級)(小,中)				42 (29,13)	46 (32,14)	47 (33,14)			
特別支援学級児童・生徒数(人)(小,中)				215(155,60)	232(169,63)	260(184,76)			
特別支援教育支援員数(人)(小,中)				47 (35,12)	50 (38,12)	55 (43,12)			
支援が必要な児童生徒への具体的な対応方法や障がいについての理解を図る研修会(年2回)を実施し、支援員の役割や一人一人異なる障がいへの理解を深めることができた。担任教師との情報交換や共通理解を図り支援に当たることによって効果的な支援となっている。特別支援学級に通う児童生徒への支援はもとより、通常学級に在籍している学習障害(LD)、注意欠如・多動性障害(ADHD)、自閉スペクトラム症(ASD)等の発達障がいの児童生徒の学習支援を行うことで、落ち着いた学習環境づくりに貢献した。									
評価	必要性	A	効率性	B	目標達成度	B	総合評価	B	
備考・特記事項									

事業名		心の教室事業費				担当部署		学校教育課																																	
会計	一般会計	款	10教育費	項	03中学校費	目	02教育振興費	教育振興基本計画 基本方針	2																																
予算額 (円)		3,001,000		前年度決算額 (円)		2,000,701		基本的施策	2-2教育相談及び教育支援体制の充実																																
決算額 (円)		事業費 2,667,642		財源内訳 (円)																																					
				国庫支出金	県支出金	地方債	その他※	一般財源																																	
		0	0	0	0	2,667,642																																			
※その他内訳：																																									
根拠法令等		荒尾市心の教室相談員設置要綱																																							
事業の目的		様々な理由や要因により、不登校や別室登校等の状態にある生徒や、人間関係などの悩みを持つ生徒及びその保護者からの相談を受け、不安やストレス等を和らげることにより不登校、いじめ、問題行動等の未然防止及び早期解決を図る。																																							
事業の内容		現在、教職員の不足や教職員多忙化により、一人一人の生徒の多岐にわたる悩みを聴き取り、不安の解消につなげることが難しくなっている。また、不登校等について悩みを抱える保護者も存在しているため、その対応策として市内各中学校に1人ずつ（計3人）心の教室相談員を配置する。																																							
事業費内訳		<table border="1"> <thead> <tr> <th>内訳</th> <th>決算額 (円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基本報酬</td> <td>2,559,785</td> </tr> <tr> <td>時間外報酬</td> <td>27,702</td> </tr> <tr> <td>健康労働保険料</td> <td>6,955</td> </tr> <tr> <td>費用弁償</td> <td>73,200</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>2,667,642</td> </tr> </tbody> </table>								内訳	決算額 (円)	基本報酬	2,559,785	時間外報酬	27,702	健康労働保険料	6,955	費用弁償	73,200	合計	2,667,642																				
内訳	決算額 (円)																																								
基本報酬	2,559,785																																								
時間外報酬	27,702																																								
健康労働保険料	6,955																																								
費用弁償	73,200																																								
合計	2,667,642																																								
事業の成果・実績		<p>心の教室相談員 活動実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>4月</th> <th>5月</th> <th>6月</th> <th>7月</th> <th>8月</th> <th>9月</th> <th>10月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>来所、電話相談、 家庭訪問の件数 (件)</td> <td>47</td> <td>64</td> <td>71</td> <td>30</td> <td>5</td> <td>27</td> <td>51</td> </tr> <tr> <td></td> <td>11月</td> <td>12月</td> <td>1月</td> <td>2月</td> <td>3月</td> <td colspan="2">計</td> </tr> <tr> <td></td> <td>70</td> <td>46</td> <td>61</td> <td>74</td> <td>48</td> <td colspan="2">594</td> </tr> </tbody> </table> <p>生徒の相談窓口として来所した生徒の相談を受け、関係職員との情報共有を図り、よりよい支援につなげるよう取り組んだ。 心の教室相談員と学校教職員で連絡を密にし、情報共有を図ることで生徒の悩みを早期に発見し、様々な角度から生徒に対しての支援を行った。また、校内不登校対策委員会では、必要に応じて関係機関と連携し、福祉分野での支援につなげた。そのほか、校舎内を巡回し、生徒の状況を把握する等、課題の早期発見につなげている。 また、心の教室相談員は、教職員にとっても相談しやすい存在となっている。</p>								区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	来所、電話相談、 家庭訪問の件数 (件)	47	64	71	30	5	27	51		11月	12月	1月	2月	3月	計			70	46	61	74	48	594	
区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月																																		
来所、電話相談、 家庭訪問の件数 (件)	47	64	71	30	5	27	51																																		
	11月	12月	1月	2月	3月	計																																			
	70	46	61	74	48	594																																			
評価	必要性	B	効率性	B	目標達成度	B	総合評価	B																																	
備考・特記事項																																									

事業名		小岱教室事業費				担当部署	学校教育課																																			
会計	一般会計	款	10教育費	項	03中学校費	目	02教育振興費	教育振興基本計画基本方針	2																																	
予算額(円)	5,381,450		前年度決算額(円)	3,868,765		基本的施策	2-2教育相談及び教育支援体制の充実																																			
決算額(円)	事業費		財源内訳(円)																																							
	4,830,742	国庫支出金	0	県支出金	0	地方債	0	その他※	0	一般財源	4,830,742																															
		※その他内訳:																																								
根拠法令等	荒尾市教育委員会教育支援センター設置要綱																																									
事業の目的	心理的又は情緒的理由により登校できない状態にある児童生徒の学校復帰など、社会的自立のための指導及び支援を目的に、平成13年に小岱教室を設置した。																																									
事業の内容	小岱教室に教育支援センター指導員を配置し、不登校児童生徒の学校復帰など、社会的自立を目指し、適応指導、学習指導、教育相談等を行う。																																									
事業費内訳	内訳							決算額(円)																																		
	基本報酬							3,285,635																																		
	時間外報酬							156,114																																		
	期末手当							486,096																																		
	勤勉手当							408,411																																		
	共済組合負担金							192,284																																		
	健康労働保険料							34,796																																		
	費用弁償							14,000																																		
	一般消耗品費							31,740																																		
	燃料費							22,758																																		
	小岱教室電話料							54,458																																		
	インターネット接続利用料							7,518																																		
	小岱教室電話利用料							38,192																																		
	備品購入費							98,740																																		
	合計							4,830,742																																		
事業の成果・実績	小岱教室利用者数																																									
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>4月</th> <th>5月</th> <th>6月</th> <th>7月</th> <th>8月</th> <th>9月</th> <th>10月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利用者数(人)</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>14</td> <td>14</td> <td>8</td> <td>15</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td></td> <td>11月</td> <td>12月</td> <td>1月</td> <td>2月</td> <td>3月</td> <td colspan="2">合計(延べ人数)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>13</td> <td>13</td> <td>12</td> <td>13</td> <td>14</td> <td colspan="2">153</td> </tr> </tbody> </table>										区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	利用者数(人)	12	12	14	14	8	15	13		11月	12月	1月	2月	3月	合計(延べ人数)			13	13	12	13	14	153	
	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月																																		
	利用者数(人)	12	12	14	14	8	15	13																																		
		11月	12月	1月	2月	3月	合計(延べ人数)																																			
		13	13	12	13	14	153																																			
	小岱教室での学習を通じて、学校で授業を受けることができるようになり、学校復帰につながる事ができた児童生徒もいた。																																									
	また、部分登校や学校行事に参加することができるようになった児童生徒も見られた。																																									
	学校と家庭との連携を深めることで、保護者に小岱教室での様子やチャレンジ登校の細かい計画を伝えることができるようになった。																																									
	毎日、小岱教室から学校へ出席状況を連絡するなど、両者が情報共有し、連携することで児童生徒の支援につながる事ができている。																																									
3月に一旦退級とすることで、4月の新学年スタートを区切りに学級に復帰する児童生徒も見られ、不登校解消に大きな役割を果たしている。																																										
評価	必要性	B	効率性	B	目標達成度	A	総合評価	A																																		
備考・特記事項																																										

事業名		フリースクール事業費（小学校・中学校）				担当部署		学校教育課			
会計	一般会計	款	10教育費	項	02小学校費 03中学校費	目	02教育振興費	教育振興基本計画 基本方針	2		
予算額（円）		29,686,000		前年度決算額（円）		15,068,059		基本的施策 2-2教育相談及び教育支援体制の充実			
決算額（円）		事業費 27,230,353		財源内訳（円）							
				国庫支出金	県支出金	地方債	その他※	一般財源			
		2,037,000	0	0	0	25,193,353					
		※その他内訳：									
根拠法令等		荒尾市教育委員会教育支援センター設置要綱									
事業の目的		心理的又は情緒的理由により登校できない状態にある児童生徒の学校復帰など、社会的自立のための指導及び支援を行う。									
事業の内容		令和2年度から荒尾第三中学校内に、令和4年度から荒尾海陽中学校及び荒尾第四中学校に、令和6年度から小学校の拠点として桜山小学校に、教育支援センター（ハートフルルーム）を設置した。不登校児童生徒の学校復帰など、社会的自立を目指し、適応指導、学習指導、教育相談等を行う。									
事業費内訳		内訳						決算額（円）			
		小学校		会計年度任用職員に係る経費				5,833,098			
		小学校		一般消耗品費				124,340			
		小学校		燃料費				7,614			
		小学校		車輛・物品等修繕費				498,300			
		小学校		電話利用料				69,660			
		小学校		車借上料				652,300			
		小学校		備品購入費				87,270			
		中学校		会計年度任用職員に係る経費				17,835,705			
		中学校		一般消耗品費				69,230			
		中学校		燃料費				173,803			
		中学校		車輛・物品等修繕費				7,150			
		中学校		電話利用料				142,051			
		中学校		保険料				13,922			
		中学校		車借上料				1,423,200			
		中学校		備品購入費				292,710			
				合計						27,230,353	
		事業の成果・実績		ハートフルルーム利用者数							
区分				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	
利用者数（人）				20	28	30	30	22	33	37	
				11月	12月	1月	2月	3月	合計（延べ人数）		
				33	32	39	37	44	385		
				ハートフルルームでの学習及び生活を通して、社会的自立に向けた取組を行った。ハートフルルーム利用者の中には教室で授業を受けることができるようになった児童生徒も見られた。							
				令和4年度から市内全中学校に開設、令和6年度には桜山小学校に開設したことで、より多くの児童生徒の支援を行うことができるようになった。小学生も中学校区のハートフルルームに加え、桜山小学校ハートフルルームを利用できるようになり、さらに児童生徒の居場所を拡充することで児童生徒の社会的自立への支援を進めることができた。							
評価				必要性	A	効率性	B	目標達成度	A	総合評価	A
備考・特記事項											

事業名		図書館管理費				担当部署	生涯学習課																													
会計	一般会計	款	10教育費	項	04社会教育費	目	03図書館費	教育振興基本計画基本方針	3																											
予算額(円)		126,167,000		前年度決算額(円)		122,687,427		基本的施策	3-1人生100年時代を見据えた生涯学習の実現																											
決算額(円)	事業費		財源内訳(円)																																	
	126,154,915		国庫支出金	0	県支出金	0	地方債	0	その他※	2,107,589	一般財源	124,047,326																								
			※その他内訳：ふるさと応援基金繰入金																																	
根拠法令等	社会教育法、図書館法																																			
事業の目的	<p>図書、記録その他必要な資料を収集、整理、保存し、一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的として、荒尾市立図書館の基本方針の実現に努めていく。</p> <p>【荒尾市立図書館の基本方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学びを『つたえる』図書館 利用者ニーズに沿った取組による多くの市民が学びを深め知を育むことができる図書館</li> <li>・交流活動と『つながる』図書館 多世代の人々が気軽に交流・滞在でき、学校や地域、団体ともつながりもある、居心地のよい図書館</li> <li>・未来に『つづく』図書館 ユニバーサルデザインやバリアフリーへの対応及びデジタル化の積極的な推進によって、快適に利用できる図書館</li> </ul>																																			
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市立図書館の管理運営（H18から指定管理を導入）</li> <li>・多世代のニーズに沿った取組による読書活動の推進</li> <li>・書店連携のイベントによる利用の促進（有名作家の講演会、スタンプラリー等）</li> <li>・市他部署との連携による本の特設コーナー（男女共同参画、世界遺産、防災等）</li> <li>・市他部署・市民団体等による展示（荒尾干潟、上下水道、炭鉱電車、海達公子等）</li> <li>・学校との連携強化（市内小学校への並行図書貸出）</li> <li>・電子書籍の利用促進（学校用タブレットでの利用、スマホ教室での啓発等）</li> <li>・各種取組の情報発信（広報誌、HP、SNS、ラジオ、イベント等）</li> </ul>																																			
事業費内訳	<table border="1"> <thead> <tr> <th>内訳</th> <th>決算額(円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>図書館協議会委員報酬</td> <td>29,400</td> </tr> <tr> <td>依頼旅費</td> <td>2,112</td> </tr> <tr> <td>一般消耗品費（ICタグ）</td> <td>589,411</td> </tr> <tr> <td>市立図書館指定管理委託料</td> <td>103,498,000</td> </tr> <tr> <td>図書館システム、デジタルライブラリー保守点検委託料</td> <td>5,634,200</td> </tr> <tr> <td>電子書籍連携利用料</td> <td>264,000</td> </tr> <tr> <td>OA機器、その他機器借上料</td> <td>7,423,020</td> </tr> <tr> <td>図書館施設借上料</td> <td>6,383,520</td> </tr> <tr> <td>一般消耗品費（木製ボックス製作用）</td> <td>161,711</td> </tr> <tr> <td>原材料費（木製ボックス製作用）</td> <td>61,952</td> </tr> <tr> <td>備品購入費（机6台、椅子24脚）</td> <td>2,107,589</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>126,154,915</td> </tr> </tbody> </table>										内訳	決算額(円)	図書館協議会委員報酬	29,400	依頼旅費	2,112	一般消耗品費（ICタグ）	589,411	市立図書館指定管理委託料	103,498,000	図書館システム、デジタルライブラリー保守点検委託料	5,634,200	電子書籍連携利用料	264,000	OA機器、その他機器借上料	7,423,020	図書館施設借上料	6,383,520	一般消耗品費（木製ボックス製作用）	161,711	原材料費（木製ボックス製作用）	61,952	備品購入費（机6台、椅子24脚）	2,107,589	合計	126,154,915
内訳	決算額(円)																																			
図書館協議会委員報酬	29,400																																			
依頼旅費	2,112																																			
一般消耗品費（ICタグ）	589,411																																			
市立図書館指定管理委託料	103,498,000																																			
図書館システム、デジタルライブラリー保守点検委託料	5,634,200																																			
電子書籍連携利用料	264,000																																			
OA機器、その他機器借上料	7,423,020																																			
図書館施設借上料	6,383,520																																			
一般消耗品費（木製ボックス製作用）	161,711																																			
原材料費（木製ボックス製作用）	61,952																																			
備品購入費（机6台、椅子24脚）	2,107,589																																			
合計	126,154,915																																			
事業の成果・実績	<p>令和6年度は、閲覧席の増設（テーブルや椅子）を行い、館内展示に使用する木製ボックスも市民向けワークショップで制作し、利用者が快適に過ごせるような環境整備を図った。令和6年度の来館者数は230,475人となり、令和5年度の228,025人より2,450人増加している。</p> <p>図書館主催の自主事業などの多様な取組を通して、多世代の居場所づくりに努めており、幼児から中高生、高齢者までの幅広い年齢の方々が利用している。また、書店共催の講演会、図書館まつり、クリスマスイベント、センターコートやシティホールを活用したイベント、他のテナントと連携した取組等には市内外からの参加者もあり、ゆめタウンシティモール全体のにぎわいや活性化にもつながっている。</p>																																			
評価	必要性	A	効率性	A	目標達成度	A	総合評価	B																												
備考・特記事項	荒尾市立図書館環境整備事業費を含めて記載																																			

事業名		あらお子どもスポーツ教室事業費				担当部署		生涯学習課																													
会計	一般会計	款	10教育費	項	05保健体育費	目	01保健体育総務費	教育振興基本計画基本方針	3																												
予算額(円)		5,149,000		前年度決算額(円)		3,609,818		基本的施策 3-2生涯スポーツの振興及び生涯学習活動施設の整備充実																													
決算額(円)		事業費 3,983,138		財源内訳(円)																																	
				国庫支出金	0	県支出金	0	地方債	0	その他※	341,500	一般財源	3,641,638																								
		※その他内訳： あらお放課後子どもスポーツ教室参加料																																			
根拠法令等		スポーツ基本法																																			
事業の目的		市内の小学校において、子どもたちを心豊かに健やかに育むために、安全・安心な活動拠点である学校施設で、放課後の時間を利用し、楽しく安全に参加できる運動教室を実施する。児童が運動する機会を確保し、楽しみながら運動することを体験することで、体を動かす基本動作を身に付けるとともに、体力の向上を図りながらスポーツに対する興味や関心を高めていく。																																			
事業の内容		市内の対象校4校（万田小、八幡小、有明小、桜山小）の4年生から6年生までを対象に、放課後の時間を利用して体育館で運動教室を開催する。スポーツ振興に関する専門家が作成したカリキュラムを基に、各種目ごとの講師とコーディネーター（会計年度任用職員）の指導の下、競技性を求めるものではなく楽しく運動すること及びいろいろな競技に触れてみることを目的に、運動が苦手な児童でも楽しく安全に参加できる運動教室を実施している。																																			
事業費内訳		<table border="1"> <thead> <tr> <th>内訳</th> <th>決算額(円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>報酬（会計年度任用職員報酬）</td><td>1,556,124</td></tr> <tr><td>期末手当（会計年度任用職員報酬）</td><td>314,351</td></tr> <tr><td>勤勉手当（会計年度任用職員報酬）</td><td>264,087</td></tr> <tr><td>共済費（会計年度任用職員人件費）</td><td>117,672</td></tr> <tr><td>健康労働保険料（会計年度任用職員）</td><td>14,963</td></tr> <tr><td>費用弁償（会計年度任用職員人件費）</td><td>24,000</td></tr> <tr><td>講師謝金</td><td>502,200</td></tr> <tr><td>一般消耗品</td><td>298,441</td></tr> <tr><td>手数料</td><td>780</td></tr> <tr><td>保険料</td><td>29,480</td></tr> <tr><td>活動充実業務委託料</td><td>670,340</td></tr> <tr><td>備品購入費</td><td>190,700</td></tr> <tr><td>合計</td><td>3,983,138</td></tr> </tbody> </table>								内訳	決算額(円)	報酬（会計年度任用職員報酬）	1,556,124	期末手当（会計年度任用職員報酬）	314,351	勤勉手当（会計年度任用職員報酬）	264,087	共済費（会計年度任用職員人件費）	117,672	健康労働保険料（会計年度任用職員）	14,963	費用弁償（会計年度任用職員人件費）	24,000	講師謝金	502,200	一般消耗品	298,441	手数料	780	保険料	29,480	活動充実業務委託料	670,340	備品購入費	190,700	合計	3,983,138
内訳	決算額(円)																																				
報酬（会計年度任用職員報酬）	1,556,124																																				
期末手当（会計年度任用職員報酬）	314,351																																				
勤勉手当（会計年度任用職員報酬）	264,087																																				
共済費（会計年度任用職員人件費）	117,672																																				
健康労働保険料（会計年度任用職員）	14,963																																				
費用弁償（会計年度任用職員人件費）	24,000																																				
講師謝金	502,200																																				
一般消耗品	298,441																																				
手数料	780																																				
保険料	29,480																																				
活動充実業務委託料	670,340																																				
備品購入費	190,700																																				
合計	3,983,138																																				
事業の成果・実績		<p>【実績】各校の放課後子どもスポーツ教室の参加者数（人）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>万田小</th> <th>八幡小</th> <th>有明小</th> <th>桜山小</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R4</td><td>15</td><td>7</td><td>2</td><td>18</td><td>42</td></tr> <tr><td>R5</td><td>19</td><td>15</td><td>12</td><td>21</td><td>67</td></tr> <tr><td>R6</td><td>25</td><td>24</td><td>18</td><td>21</td><td>88</td></tr> </tbody> </table> <p>本事業実施後の体力テストにおいては、運動能力が向上した児童も多数おり、子どもたちの体力向上に一定の効果があると考えられる。</p>									万田小	八幡小	有明小	桜山小	合計	R4	15	7	2	18	42	R5	19	15	12	21	67	R6	25	24	18	21	88				
	万田小	八幡小	有明小	桜山小	合計																																
R4	15	7	2	18	42																																
R5	19	15	12	21	67																																
R6	25	24	18	21	88																																
評価	必要性	A	効率性	B	目標達成度	A	総合評価	B																													
備考・特記事項																																					

事業名		荒尾運動公園施設長寿命化計画事業費					担当部署	生涯学習課																									
会計	一般会計	款	10教育費	項	05保健体育費	目	02体育施設費	教育振興基本計画 基本方針	3																								
予算額 (円)	48,000,000		前年度決算額 (円)	9,163,000		基本的施策		3-2生涯スポーツの振興及び生涯学習活動施設の整備充実																									
決算額 (円)	事業費		財源内訳 (円)																														
	13,586,447		国庫支出金	県支出金	地方債	その他※	一般財源																										
			6,793,223	0	6,113,000	0	680,224																										
※その他内訳：																																	
根拠法令等	荒尾運動公園施設長寿命化計画																																
事業の目的	施設の種別に応じた日常点検や定期点検を実施し、利用者の安全と利便性を確保するように努めるとともに、執行予算の平準化を図りながら計画的な補修、改築及び更新を実施し、施設の延命化によるライフサイクルコストの縮減を図る。																																
事業の内容	荒尾運動公園内の体育施設や便益施設などについて、安全性確保・機能保全・ライフサイクルコストの縮減・耐用年数の延伸等を図る観点から、既存ストックの長寿命化や適切な維持管理を行うために、平成29年度に策定した荒尾運動公園施設長寿命化計画及び再配置計画に基づき、事業を実施する。																																
事業費内訳	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">内訳</th> <th>決算額 (円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">野球場バックネット改修工事請負費</td> <td>13,586,447</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td colspan="2"> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td colspan="2"> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td colspan="2"> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td colspan="2"> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td colspan="2">合計</td> <td>13,586,447</td> </tr> </tbody> </table>							内訳		決算額 (円)	野球場バックネット改修工事請負費		13,586,447																合計		13,586,447		
内訳		決算額 (円)																															
野球場バックネット改修工事請負費		13,586,447																															
合計		13,586,447																															
事業の成果・実績	<p>老朽化していた野球場バックネットを改修したことで、防球機能が改善し、利用者の安全面を確保することができた。児童公園内トイレ及び児童公園内遊具については、令和7年度に繰越しを行った。</p> <p>今後も施設の長寿命化計画に基づき、老朽化施設を計画的かつ効率的に改修することにより、安全・安心な健康の増進・推進の場として、地域の生涯スポーツの推進に寄与し、公園施設の長寿命化を図っていく。</p>																																
評価	必要性	A	効率性	B	目標達成度	B	総合評価	B																									
備考・特記事項																																	

事業名		地域と学校の連携・協働体制構築事業費					担当部署	生涯学習課			
会計	一般会計	款	10教育費	項	04社会教育費	目	01社会教育総務費	教育振興基本計画基本方針	4		
予算額(円)	2,000,000		前年度決算額(円)	811,436			基本的施策	4-4家庭、地域、学校の連携・協働の推進			
決算額(円)	事業費		財源内訳(円)								
	822,487	国庫支出金	0	県支出金	529,000	地方債	0	その他※	0	一般財源	293,487
		※その他内訳:									
根拠法令等	社会教育法、荒尾市地域学校協働活動運営委員会設置要綱、荒尾市地域学校協働活動推進員等設置要綱										
事業の目的	学校、地域（高齢者、成人、学生、保護者、PTA、NPO、民間企業・団体・機関等の幅広い地域住民）、家庭が連携し、新しいつながりによる「地域の教育力」の向上により、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えていくことを目指す。										
事業の内容	<p>地域学校協働活動推進員を10人、令和6年度から統括的地域学校協働活動推進員を1人配置し、市内小中学校全13校の教育現場において地域の方々に無償ボランティアとして様々な学校支援の活動をしてもらうため、地域学校協働活動推進員が地域と学校を結ぶ橋渡し役となり、調整などを行っている。</p> <p>ボランティアによる授業補助（校外学習引率、家庭科のミシン補助、農業体験）、学校環境の整備（除草作業、図書室整理）、クラブ活動（絵工作、茶道）指導などを行う。</p>										
事業費内訳	内訳						決算額(円)				
	講師謝金（地域学校協働活動推進員）						625,850				
	旅費（研修交通費）						2,112				
	一般消耗品費						87,375				
	保険料（無償ボランティア分）						107,150				
	合計						822,487				
事業の成果・実績	<p>地域学校協働活動推進員が発掘した地域ボランティアの延べ人数は、6,000人程度を維持している状態である。</p> <p>また、学校でボランティア人材のリスト等を保管している学校もあり、推進員へ依頼を行わず、直接学校がボランティアへ依頼をしているものも増えてきている。</p> <p><b>【実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域学校協働活動推進員が発掘による地域ボランティア延べ人数 令和5年度 6,752人 令和6年度 6,148人</li> <li>各学校における活動例 登下校見守り、丸付けボランティア、校外学習補助、昔遊び等</li> </ul>										
評価	必要性	A	効率性	B	目標達成度	B	総合評価	B			
備考・特記事項	財源内訳：国1/3、県1/3、市1/3										

事業名		夏休み子ども学び塾事業費				担当部署	生涯学習課																				
会計	一般会計	款	10教育費	項	04社会教育費	目	01社会教育総務費	教育振興基本計画基本方針	4																		
予算額(円)	219,000		前年度決算額(円)	83,103		基本的施策		4-4家庭、地域、学校の連携・協働の推進																			
決算額(円)	事業費		財源内訳(円)																								
	86,090		国庫支出金	0	県支出金	0	地方債	0	その他※	10,000	一般財源	76,090															
	※その他内訳：夏休み子ども学び塾参加料																										
根拠法令等	特になし																										
事業の目的	夏休みの宿題などを行う自学自習の時間を設けることで子どもたちの学びを促し、学習の定着を図る。また、郷土の歴史や文化、自然などの体験活動も行うことで、子どもたちの郷土への愛着や地域に貢献しようとする心を育むことを目指すものである。																										
事業の内容	市内の小学4～6年生の児童を対象に学習の定着、子どもたちの郷土愛の醸成及び地域との交流の場づくりとして夏休み子ども学び塾を開催する。 自学自習の時間を設け、熊本大学小学校教員養成課程専攻の学生による学習支援を受けながら夏休みの宿題や苦手科目の克服などを行い、荒尾の歴史や文化、食、自然などを学ぶ体験活動を実施する。																										
事業費内訳	<table border="1"> <thead> <tr> <th>内訳</th> <th>決算額(円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>講師謝金</td> <td>57,000</td> </tr> <tr> <td>旅費</td> <td>2,160</td> </tr> <tr> <td>一般消耗品費</td> <td>4,096</td> </tr> <tr> <td>賄材料費</td> <td>14,886</td> </tr> <tr> <td>体験活動参加手数料(テラー乗車体験)</td> <td>5,400</td> </tr> <tr> <td>保険料</td> <td>2,548</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>86,090</td> </tr> </tbody> </table>											内訳	決算額(円)	講師謝金	57,000	旅費	2,160	一般消耗品費	4,096	賄材料費	14,886	体験活動参加手数料(テラー乗車体験)	5,400	保険料	2,548	合計	86,090
内訳	決算額(円)																										
講師謝金	57,000																										
旅費	2,160																										
一般消耗品費	4,096																										
賄材料費	14,886																										
体験活動参加手数料(テラー乗車体験)	5,400																										
保険料	2,548																										
合計	86,090																										
事業の成果・実績	<p>令和6年度は、夏休みが始まりすぐに実施したため、夏休みの宿題を集中して取り組む子どもたちが多かった。2日間の取組の中で参加者同士が協力し合い、夏休み中に自宅でも取り組める調理や体を使った全身運動プログラムを実施した。また市内在住の外国人との交流を通して異文化にふれるとともに、荒尾干潟ではテラー乗車や生き物観察など日頃は体験できない郷土の魅力を体験することができた。</p> <p>参加者については、令和5年度は8月中旬実施だったが時期を早めたことにより増加に転じた(令和6年度：10人、令和5年度：5人)。満足度に関するアンケートでも、回答者全員が100%満足しているという結果であった。</p> <p>体験活動が楽しかったと答えた児童が最も多かったことから、プログラムそのものに満足してもらえたことがうかがえる。</p>																										
評価	必要性	A	効率性	B	目標達成度	B	総合評価	B																			
備考・特記事項																											

令和6年度荒尾市教育委員会の事務点検及び評価に関する概評

事務点検評価委員：森江 一史

事業名	概 評
1 語学指導外国青年招致事業費	<p>新たに3名を任用し5名体制を維持することで、外国語教育及び国際理解教育の充実が図られており、体制整備の面から評価できる。また、ALTが「チーム学校」の一員として児童生徒及び教職員と関わり、学校文化の形成に一定の成果を上げている点も認められる。</p> <p>今後は、授業改善や生徒指導への関与を含め、学校における学びの質の向上に資するALTの効果的な活用方策について、さらなる検討と充実が期待される。</p>
2 小学校・中学校ICT環境整備事業費	<p>平成30年度以降、電子黒板の整備、一人一台端末の配備、ICT支援員の配置等により、ICT環境の整備は計画的かつ着実に進展している。令和6年度までに全校へローカルブレイクアウトが導入されたことで、デジタル教科書やデジタル教材の活用環境が整備された点は高く評価できる。</p> <p>今後は、家庭学習の充実や不登校児童生徒への支援など、授業以外の場面での活用についても、他自治体の先行事例等を参考にしながら、さらなる取組の深化が期待される。</p>
3 荒尾市就学援助事業費	<p>就学援助の支給世帯数が年々増加する中、本事業は児童生徒の就学支援において重要な役割を果たしており、評価できる。特に、「新入学児童生徒学用品費」を現年度3月に前倒しで支給している取組は、保護者の負担軽減に資するものとして意義がある。</p> <p>今後は、より早期の支給を希望する世帯への対応について検討するとともに、家庭の経済状況の変化に応じて、迅速に支援につなげられる体制の整備が求められる。併せて、学校と家庭との情報共有の充実や、就学援助手続きに関する周知を一層図ることで、事業のさらなる充実が期待される。</p>
4 学校給食費無償化事業費	<p>本事業は、「子どもたちの成長を市民全体で支える」取組として、特に子育て世代の経済的負担の軽減に寄与しており、評価できる。また、子育て支援及び少子化対策の観点からも、「安心して子育てできるまち」の実現に向けた取組として一定の成果を上げている。併せて、学校における食育や地産地消の推進を通じ、児童生徒の食に対する意識の醸成や、地域への理解促進にも貢献している点が認められる。</p> <p>今後、これらの取組が継続的に実施されることを期待したい。</p>
5 小学校・中学校施設長寿命化改修事業費	<p>「荒尾市学校施設等長寿命化計画」に基づき、学校施設の改修が着実に進められている。バリアフリートイレの設置や建物入口の段差解消工事を4校で実施するとともに、次年度に向けたバリアフリー化工事の調査・設計を行うなど、各学校における教育環境の整備が計画的に推進されている点は評価できる。</p> <p>今後、児童生徒及び教職員が安全・安心に学校生活を送ることができるよう、継続的かつ計画的な修繕・改修に取り組むことが期待される。</p>
6 英語検定チャレンジ事業費	<p>中学1年生から3年生までの全学年において、約9割の生徒が受験しており、本取組は英語学習への意欲向上に一定の成果を上げていると評価できる。一方、希望制であることから未受験となっている生徒に対しても、英語に対する苦手意識の軽減を図りつつ、資格取得としての意義を丁寧に伝えるなど、受験への働きかけを継続することが望まれる。</p> <p>併せて、ALTの効果的な活用を含め、教員の指導力向上にも資する取組として、今後も継続的に実施されることを期待したい。</p>
7 授業改善アドバイザー事業費	<p>荒尾市の特色ある取組として、平成30年度以降、同じ「授業改善アドバイザー」を各学校に派遣し、実地指導を通じて、児童生徒主体の授業スタイルである「進化型あらおベーシック」の理論及び指導技術の定着を図る体制が構築されている点は評価できる。また、毎年、新転入教職員（約90名）を対象とした研修を継続的に実施していることも、取組の持続性の観点から高く評価できる。</p> <p>7年間にわたる授業改善の取組は、着実に成果を上げており、学力向上につながっていることが認められる。</p>
8 子ども未来文庫整備事業費（小学校・中学校）	<p>「オンリーワンの学校づくり」に資する図書購入や、NIE推進を目的とした新聞購読は、児童生徒の読書活動の充実及び学力向上に寄与しており、評価できる。</p> <p>学校図書の整備やNIEの実践は、「進化型あらおベーシック」に基づく授業改善の基盤となるとともに、生涯にわたる読書習慣の形成にもつながる取組であることから、今後も継続的かつ一層の充実が期待される。</p>
9 特別支援教育支援員事業費	<p>「特別支援教育支援員」の配置は、支援を必要とする児童生徒の増加に対応して年々拡充されており、個別の支援体制の充実が図られている点は評価できる。また、通常学級に在籍する発達障がいと思われる児童生徒への対応においても、重要な役割を果たしている。</p> <p>今後、支援員の配置を継続するとともに、年2回実施している研修に加え、学校全体での情報共有や「チーム学校」の視点による定期的な情報交換の機会を充実させ、支援体制の一層の強化を期待したい。</p>

令和6年度荒尾市教育委員会の事務点検及び評価に関する概評

事務点検評価委員：森江 一史

	事業名	概評
10	心の教室事業費	生徒及び保護者からの多様な相談に対応する「相談員」の配置は、不安の軽減や心理的負担の緩和に寄与しており、着実な成果を上げていると評価できる。相談員が学校職員と情報を共有しながら生徒支援に当たる体制は、教職員の業務負担の軽減にもつながっており、働き方改革の観点からも意義がある。また、相談員が教職員にとっても相談しやすい存在として機能している点は特筆すべき成果である。 今後は、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの役割分担を整理した上で、本取組を継続的に実施することが望まれる。
11	小岱教室事業費	不登校児童生徒への支援を目的とした「教育支援センター指導員」3名の配置は、支援体制の充実において重要な役割を果たしており、評価できる。指導員が学校と家庭の間に立ち、相互の連携を促進する取組は、支援の質の向上に寄与している。一方で、指導員の役割や機能については、各学校の教職員に対して事前に十分な説明と共通理解を図ることが必要である。 今後も、不登校児童生徒が学校施設以外において安心して過ごせる居場所づくりとして、本事業を継続・充実させていくことが期待される。
12	フリースクール事業費	令和4年度から全3中学校、令和6年度からは1小学校に校内フリースクール「ハートフルルーム」を開設し、児童生徒の社会的自立に向けた支援体制が段階的に整備されてきている点は評価できる。また、フリースクール公用車を活用した指導員によるアウトリーチ体制の構築は、支援の幅を広げる取組として意義がある。これらの取組は、教職員の業務負担軽減にも寄与しており、働き方改革の観点からも評価できる。 今後も、不登校児童生徒の増加が想定される中、継続的かつ安定的な支援体制として、本事業の充実が期待される。
13	図書館管理費	新図書館への移転から3年目を迎え、来館者数は旧図書館時代の5倍以上に増加しており、利用の定着と拡大が着実に進んでいる点は高く評価できる。幼児から高齢者まで幅広い世代に利用されているほか、特に中学生・高校生の学習利用が多く、子どもたちが日常的に過ごす場として機能していることが認められる。 今後は、各種イベント等のさらなる充実を図ることで、市民が交流する知的コミュニティーの拠点としての図書館機能が一層活性化することが期待される。
14	あらお子どもスポーツ教室事業費	子どもたちが多様な競技に親しみながら運動に取り組むことができる運動教室の実施は、着実な成果を上げている。参加者数は年々増加しており、運動が苦手な児童においても、基本的な身体動作の習得や体力の向上、スポーツへの興味・関心の喚起につながっている点は評価できる。また、体力テストにおいて運動能力の向上が確認された児童が多数報告されていることも、本取組の成果として認められる。 今後も、本事業が継続的に実施されることを期待したい。
15	荒尾市運動公園施設長寿命化計画事業費	運動施設及び便益施設については、安全性・利便性の確保、機能保全、ライフサイクルコストの縮減及び耐用年数の延伸を目的として、計画的な補修・改築・更新が実施されている。こうした取組の中で、令和6年度に実施した野球場バックネットの改修により、防球機能が向上し、利用者の安全確保が図られた点は評価できる。 今後も、利用者が安全・安心して健康増進に取り組むことができる環境の維持に向け、継続的かつ計画的な施設整備が期待される。
16	地域と学校の連携・協働体制構築事業費	地域と学校をつなぐ役割を担う「地域学校協働活動推進員」は、各学校における地域ボランティアの掘り起こしを通じて、「地域の教育力」を活用した教育活動の支援に大きく寄与している。登下校時の見守りや学習支援、校外学習の補助、伝承遊び等における地域ボランティアの参画は、教育活動の充実に加え、教職員の業務負担の軽減にもつながっており、働き方改革の観点からも評価できる。 今後も、学校支援における地域ボランティアの役割や意義について、より一層の周知を図り、取組の継続と充実が期待される。
17	夏休み子ども学び塾事業費	夏季休業期間中に小学4～6年生を対象として実施した「子ども学び塾」は、学習内容の定着に加え、郷土愛の醸成や地域との交流促進に寄与しており、一定の成果を上げている。宿題への集中的な取組や、全身運動プログラム、荒尾干潟における体験活動など、多様な学習機会を提供できている点は評価できる。また、実施時期を前倒したことで参加者数が増加し、アンケート結果においても良好な評価が得られている。 今後は、活動内容の周知方法を工夫しつつ、本事業の継続的な実施と一層の充実が期待される。

## 令和6年度荒尾市教育委員会の事務点検及び評価に関する概評

事務点検評価委員：塚本 雅之

	事業名	概 評
1	語学指導外国青年招致事業費	ALT（外国語指導助手）の活用に積極的に取り組んでいる。 義務教育の年齢で英語のネイティブな発音を経験しておくことは英会話を身につけるにあたって優位性があるということと併せて外国の文化や習慣を知ることが、自分と他人との違いを認識し、違いを認め合い、尊重し合うという「多様性」を醸成する上でも大きな意味があることから、児童生徒がそれらを実践する機会となる事業を今後も継続されたい。
2	小学校・中学校ICT環境整備事業費	GIGAスクール構想に基づいた授業を円滑に進めるように取り組んでいる。 「個別最適な学び」と「協働的な学び」がこれまで以上に円滑に進むように児童生徒の学習用端末などの速度改善を図ったことから、これらICT機器を効果的に活用されたい。
3	荒尾市就学援助事業費	経済的な理由で就学が困難な児童生徒の就学に要する経費の一部を公費で負担することで児童生徒の学習の機会を担保している。 これまでに新入学用品費の前倒し支給や一部単価の増額など様々な事情を考慮した援助を行っており、今後も経済情勢や要援助世帯の事情などを勘案して適切な援助となるよう配慮されたい。
4	学校給食費無償化事業費	子育て世代の経済的な負担を軽減することで、市民が安心して荒尾市で子育てが出来るように取り組んでいる。 日本全体が人口減を迎える中、自然減の要因のひとつである出生率低下への対策ともなる事業を国に先駆けて進めていることを高く評価する。
5	小学校・中学校施設長寿命化改修事業費	学習や安全などにおける教育環境の一定水準の維持と学校施設のトータルコスト縮減などのために、計画に基づいて適宜・適切に改修に取り組んでいる。 何らかの障がいをもっている人もそうでない人も、誰もが同じように就学できるように、それを阻害する物理的な障壁を解消するためのバリアフリー化については喫緊の課題であることから早期に完了されたい。
6	英語検定チャレンジ事業費	「英語」を聴いて理解する力と話す力を身につけるために取り組んでいる。 合格者は多くはないものの毎年多くの生徒が受験しており、語学指導外国青年招致事業と併せて実施することで、生徒が世界的な共通語である「英語」への興味を深める契機となる事業を今後も継続されたい。
7	授業改善アドバイザー事業費	子どもたちが主体的に学ぶ「全員参加型」の授業づくりのために、教師や管理職などが理論や指導技術を学ぶ機会を提供することで「進化型あらおベーシック」の推進に努めている。 全国平均や県平均を上回る教科があるという成果と「学校が楽しい」「授業が分かる」と考えている子どもたちが9割前後であることから、今後も授業改善を重ねることで児童生徒の学力の向上に努められたい。
8	子ども未来文庫整備事業費（小学校・中学校）	各学校が選定した図書及び新聞を購入したことで、児童生徒の学力向上につながる「読書意欲の向上」に努めている。 学力向上のためには教科書や試験問題が意味するところを正しく読み取る必要があるし、社会人ともなれば「文章読解力」が不可欠となる。 洗練された文章である本や新聞に児童生徒が興味を持つための事業を今後も継続されたい。
9	特別支援教育支援員事業費	特別な支援を必要とする児童生徒の日常生活を介助し、学習活動や生活上のサポートに努めている。 支援員の役割や具体的な対応あるいは障がいに関する理解を深めるための研修会を行うことで効果的な支援になるように努めたことから、教室を落ち着いた学習環境にできていることを高く評価する。

令和6年度荒尾市教育委員会の事務点検及び評価に関する概評

事務点検評価委員：塚本 雅之

事業名	概評
10 心の教室事業費	心の教室相談員と学校教職員が連携することで、不登校や別室登校などの生徒や悩んでいる生徒らを支援している。 相談員が教職員にとっても相談しやすい存在となっていること及び学校内部だけの対応に留まらず必要に応じて福祉分野での支援に繋げていることを高く評価する。
11 小袋教室事業費	心理的または情緒的な理由で登校できない児童生徒に対して学校に復帰するなど「社会的自立」のための指導や支援に努めている。 小袋教室と学校が連携して支援に繋げていること及び不登校が解消したり、部分登校や学校行事に参加できるようになった児童生徒がいることを高く評価する。
12 フリースクール事業費	心理的または情緒的な理由で登校できない児童生徒に対して学校に復帰するなど「社会的自立」のために、適応指導、学習指導及び教育相談などに努めている。 児童生徒の居場所となる「教育支援センター（ハートフルルーム）」を利用する児童生徒には、学校で授業をうけることができるようになった実績もあることから、今後も必要に応じて事業を充実させることで「社会的自立」のための支援に努められたい。
13 図書館管理費	テーブルや椅子の増設や館内に展示ボックスを設置するなど市民が利用する際の利便性の向上に努めている。 様々な事業の開催や図書館が立地する商業施設のテナントなどと連携した取り組みによって、利用者数が前年度よりも増加したと共に利用者が幅広い年齢層に広がっている。 「閉架図書（貴重な資料や古い資料など利用頻度の低い資料）の閲覧希望」への対応などを含めて、引き続き、利用者本位でサービスを提供することを期待する。
14 あらお子どもスポーツ教室事業費	児童が、楽しみながら様々な運動を経験するために運動教室を開催することで、成長過程にある児童の運動能力をバランス良く増進し体力の向上に努めている。 本教室は、成長期において身体能力をバランス良く増進させる効果が期待されることから、今後も運動が苦手な児童にも興味を持ってもらえて、参加して楽しめるような運動教室を運営されることに期待する。
15 荒尾市運動公園施設長寿命化計画事業費	計画に基づいて、野球場のバックネットの改修を行ったことで運動公園利用者などの安全担保に努めている。 幅広い年齢層の市民が利用している運動公園は、供用開始から長期間が経過しており老朽化した施設もあることから、利用者が安全かつ快適に利用できるよう、今後とも計画的な補修、改修及び更新に努められたい。
16 地域と学校の連携・協働体制構築事業費	地域住民にボランティアで学校活動の支援を行ってもらうために「地域学校協働活動推進員」による地域と学校との橋渡しに努めている。 地域学校協働活動推進員が橋渡しした人数が前年度よりも減少しているが、これは学校が住民に直接依頼することで住民が学校活動を支援している事例が増えているからと受け止める。 学校が直接依頼できるということは、地域のランドマークとなる「学校」が地域と繋がっている証であり、それは学校の教職員や保護者が努力しているのみならず本事業が学校と地域との繋がりに刺激を与えた結果でもあると思われることから、今後も学校が地域と繋がっていくために「地域学校協働活動推進員」の活動に期待する。
17 夏休み子ども学び塾事業費	夏休みの宿題への取り組み、調理、全身運動プログラム、外国人との異文化交流及び荒尾干潟での生き物観察などを通じて、自学自習による学びの促進や学習の定着、郷土の歴史や文化あるいは自然などの体験活動に努めている。 今回は開催時期を早める工夫をして前年度から参加者数が倍増したことを評価する。 本事業は、様々な体験の機会となりながらも参加費が低額であり、何よりも参加者が「楽しかった」「満足している」と思えるプログラムを展開していることから、事業運営に支障が生じない範囲で参加人数を増やすことに努められたい。